



2013年12月27日

岩舟町議会議長 渡辺 仁一 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達 文宏
同 栃木地域会 代表 慶野 正司

岩舟町立小野寺北小学校旧校舎の保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴町におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに、心より敬意を表します。

さて、貴町大字小野寺2127、岩舟町立小野寺北小学校旧校舎（前小野寺研修所）を7月に見学に訪れた際、解体の予定であることを知りました。所在地を含めた地域が、栃木県の「土砂災害特別警戒区域」に指定され、急傾斜地の崩壊等が発生する可能性があること、あるいは老朽化や耐震性の問題など、地域住民の安心・安全を考慮したことがその理由と聞いております。

ご高承のように、小野寺北小学校旧校舎は、当初明治27年に建てられ、同33・42年に増築されたとき、これは栃木県内で現在確認されている小学校校舎として最も古く、広く関東においても最古である可能性があります。文化財建造物の専門家による調査でも、表面的には改造や改変が見られるものの、軸部や小屋組などは当初の形式を良く残しており、建物本体の価値は十分保たれていて、数少ない明治期の木造小学校校舎として貴重であり、文化的価値があるとの報告がされています。

歴史的・文化的な価値の高い建造物は、上手く保存活用することで、地域にとって大切な文化的・景観的資産となり得ます。しかし、ひとたび失ってしまえば、その価値を永久に取り戻すことは出来ません。既に研修所機能の移転を完了している現在、安全上からの解体の緊急性は当面回避されていると考えられることから、一旦解体を延期し、文化的価値を将来に遺すべく、しかるべき時期に改めて、保存活用の方法など十分な検討を行っていただけますよう、ここにお願い申し上げます。

なお、当協会としましても、岩舟町立小野寺北小学校旧校舎の保存活用について、安心安全の対策も含めて、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具